

国語 第5学年 しかけと表現の工夫を見つけて、物語のおもしろさを伝える文章を書こう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。東京書籍『新編 新しい国語 五』（令和6年度版）に物語教材として載っている（東書Eネットの教科書単元リンク集と年間指導計画作成資料で確認）。会社によって載せる学年や単元名が違うので、他の教科書を使う学級では目次で確かめる。

この単元で子どもが最後にできるようになること

二人の紳士が扉の注文を自分の都合のよいほうに受け取って奥へ進み、最後に料理される側だったと気付く物語の全体を、場面の移り変わりと描写を基に自分の言葉で説明できる。そのうえで、二通りに受け取れる題名や注文の言葉、同じ形で繰り返される扉、色や音の描き方といった表現の工夫を見つけ、それが読む人にどう働くかを理由をつけて語れる。単元の終わりには、まだ読んでいない人へ物語のおもしろさを伝える文章にまとめ、友達どうして読み合って自分の考えを広げる。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕の目標 (2)	(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。
〔第5学年及び第6学年〕の目標 (3)	(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(1)ク	ク 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(1)ケ	ケ 文章を音読したり朗読したりすること。
〔第5学年及び第6学年〕C読むこと(1)イ	イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。
〔第5学年及び第6学年〕C読むこと(1)エ	エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。
〔第5学年及び第6学年〕C読むこと(1)オ	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。
〔第5学年及び第6学年〕C読むこと(1)カ	カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。
〔第5学年及び第6学年〕C読むこと(2)イ	イ 詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。

単元の目標

(1) 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。〔知識及び技能〕(1)ク／(2) 登場人物の相互関係や心情などを描写を基に捉え、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。C(1)イ・エ／(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。((1)ク) ②文章を音読したり朗読したりしている。((1)ケ)	①「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) ②「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ) ③「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ)	①進んで表現の効果を考え、学習の見通しをもって、物語のおもしろさを伝える文章を書こうとしている。

単元の流れ

東京書籍の年間指導計画作成資料（令和6年度版、2024年1月）は、この物語を扱う単元に6時間（読むこと6）を配当している。下の次ごとの内訳（1・3・2）はこちらの案。別の教科書を使う学級や、学校の年間指導計画が違う時はそれに合わせる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○全文を音読で読み通し、登場人物（二人の紳士、二匹の犬、山猫）を確かめる。 ○どこで現実の山から不思議な店に入り、どこで戻ったかを、場所と出来事の変化で区切って表にする。 ○「この物語のおもしろさはどこにあるか」を仮の一文で書き、単元の終わりに書く文章の相手（下の学年や家の人）を決める。	知②（音読の様子） 態①（見通しの記述・ノート）
第2次	2	○扉の順に、注文の言葉（先生が本文から入れる欄）・二人の受け取り方・読む人が気付くこと、の三列の表を作る。	思①（表の記述・話し合いの発言）
	3 （本時）	○繰り返される扉の場面を比べ、二通りに受け取れる言葉や同じ形で繰り返される言葉、色・音・においの描き方が、読む人の気持ちをどう動かすかをペアで話し合う。	知①（線を引いたノート） 思②（話し合いの発言）
	4	○最後の場面で紳士の顔が元に戻らないことの意味を、冒頭の二人の様子と結び付けて考える。 ○題名の二つの意味に気付く。	思②（表の記述・話し合いの発言）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第3次	5	○結末を書かずに、しかけ一つと表現の工夫一つを取り上げ、それがどう効くかを理由を付けて書く。	思③（書いた文章）
	6	○グループで読み合い、相手の文章で自分が気付かなかった工夫を一つ書き足す。 ○単元の振り返りで、最初に書いた仮の一文と比べる。	思③（書き足し） 態①（振り返りの記述・読み合いの様子）



本時の案

本時の目標：繰り返される扉の場面を比べ、言葉の使い方の工夫が読む人にどんな効果を生んでいるかを、描写を基に説明できる。((1)ク、C(1)エ)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	1 前時に作った扉ごとの表で、二人が扉を通るたびに何を信じ、読む人は何に気付いたかを確かめる。 2 本時の問いをつかむ。 ○「注文は一つずつ増えて、おかしいとも言われているのに、二人はなぜ引き返さなかったのだろう。言葉のどこがそうさせたのか」 【めあて】扉の注文の言葉の工夫が、読む人にどんな効果を生んでいるかを考えよう。 3 自分の予想をノートに一文で書く。	・前時に作った扉ごとの表を黒板に貼り、一つずつ指で押さえながら確かめる。 ・予想を一文で書かせてから活動に入る。
展開 (分)	4 一人で、扉の注文の言葉に、二通りに受け取れる言葉と、同じ形で繰り返されている言葉を、色を分けて線を引く。 5 ペアで、線を引いた所を、その言葉がなかった時と置き換えて比べる。 ○「その言葉がなかったら、二人は、読む人はどう感じるか」 6 全体で、出てきた工夫を「繰り返し」「二通りの言葉」「色・音」の三つに分け、それぞれが読む人にどう働くかを、読む人の側の言葉で言い直す。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ形の注文が続くから、だんだん疑わなくなる。 ・読む人は途中で変だと気付くのに、二人は気付かない。そのずれがこわくておもしろい。 ・色や音の描き方が、奥に進むほど変わっていく。	・注文の言葉は、教科書の該当箇所を開いて指させる。黒板には短い語だけ書く。 ・線が引けない子には「この注文は誰が誰に向けた言葉か」と問い、一つ前の扉と比べさせる。 ・早く終わった子には題名の二つの意味を問い、どちらの意味が最後に残るかを考えさせる。 ・「おもしろい」「こわい」で止まった発言は「どの言葉がそう感じさせたか」と叙述に戻す。 ・音読が苦手な子にはペア読みや範読を入れ、目で追えるように表を使う。 ・端末がある学級では三列の表を共有シートにして、友達の線の引き方を見比べられるようにする。 ◎知① 比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(線を引いたノート) ◎思② 表現の効果を考えている。(話し合いの発言)
まとめ (分)	7 振り返りを二文で書く。 (型)「今日見つけた工夫の一つを選び、それがあって読む人はこう感じる」 8 数人が読み上げる。	・次時は最後の場面と冒頭を結び付けて、物語の全体をとらえることを伝える。

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端：題名・作者・めあて（表現の工夫→読む人への効果）。

その左：扉の順番と注文の言葉（先生が本文から短く入れる）。

中央：二人の受け取り方（心情が分かる言葉）。

その左：読む人が気付くこと。

左側：見つけた工夫を三つの箱（繰り返し／二通りの言葉／色・音）に分け、矢印の先に効果を書く。

左端：振り返りの型。

つまずきやすい所と手当て

現実と不思議な世界の切り替わりを見失う子が多いので、第1次で場所と出来事の変化を表にしておく。山猫の注文を文字どおりに受け取り、紳士と同じ受け取り方のまま読み進める子には、扉ごとに「誰のための注文か」を問い直す。比喻や繰り返しの効果を「おもしろい」で止める子には、その言葉を抜いた文と比べさせる。書かれた時代の言い回しや今は使わない言葉で意味が取れない時は、辞書で調べる活動を入れる（第3の2(1)イ）。第3次で結末まで全部書いてしまう子には、「まだ読んでいない人に、結末を言わずにしかけを伝える」という条件を最初に示す。

プリントの案

場面の移り変わり表

場所・出来事・二人の様子が分かる言葉、の三列。現実から不思議な店に入る所と戻る所に線を引く欄。言葉は先生が教科書から入れる。

扉と注文の三列表

扉の順番ごとに、注文の言葉（先生が入れる）・二人の受け取り方・読む人が気付くこと。下に、繰り返し／二通りの言葉／色・音の工夫を書き出す枠。

おもしろさを伝える文章の下書き用紙

相手・取り上げるしかけ一つ・表現の工夫一つ・その効果・結末を書かない確認欄。読み合いで友達から書き足す欄を付ける。

振り返りカード

毎時間「見つけた工夫→読む人への効果」を二文で書く欄と、単元の初めに書いた仮の一文を貼る欄。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）（文部科学省）（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語」（2020年3月）公式PDF。評価規準の形と文末の出典

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）／東京書籍「新編 新しい国語」年間指導計画作成資料 5年（2024年1月）。配当6時間（読6）の出典（https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_keikaku_5_202401.pdf）／東京書籍 年間指導計画作成資料の一覧ページ（<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/keikaku/>）／東書Eネット 教科書単元リンク集「注文の多い料理店（物語）」新編 新しい国語 五。掲載の確認（<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/tangenl/shou/10405/10661/>）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

